

【ブラジル 鯉のぼり友好の旅】

2018年11月28日～12月10日

ブラジルには現在、日本人、日系の人たちが200万人居住していると言われ年々、その人数は増えています。

遠く離れて居住する日本人は、日本を懐かしみ五節句文化を大切に伝承し、日系人たちは祖父母や親から教えられ、節句文化に触れながら、まだ行ったことが無い日本、先祖のルーツとしての文化を継承しています。

数年前から交流が有る日本人、椎茸をブラジルで最初に栽培され、現在はマッシュルーム、平茸などを栽培する傍ら、吉野杉の林を作り、ビールの醸造所を作り、吉野杉の林の中でビアガーデンも経営する人、山下誠氏の移民50周年記念、75才の誕生祝賀会に参加してきました。

ブラジルに居住する日本人、日系の人たちは運動会、盆踊りなどみんなが集まる所には鯉のぼり、鯉のぼりが日本人のシンボルとなっているようです。

山下氏を通じ、鯉のぼりの寄贈依頼が毎年有りますが、日本では薄れかけた節句文化を大切に伝承される気持ちを思うと寄贈して掲揚しに行きたくになります。

これからも、鯉のぼりでの交流は続けて行こうと思います。
先ずは今回の鯉のぼり友好の旅を報告されて頂きます。



山下誠氏、移民50周年、75才誕生祝賀会、日本人、日系人など120人が参加されました。

日系の人たちは3世から5世の人が多く日本語が話せる人は3割程度でした。一見して日系と解る人は5割程度で他の人たちは混血を繰り返し、何処の国系か判別は不可能でした。

それが移民の国、ブラジルだと思えます。





在ブラジルクリチバ日本国総領事公邸で歓迎会を開いて頂きました。
逢沢一郎議員と議員会館で面会時に、逢沢議員にクリチバの総領事館に赴任すると挨拶にいられた、木村元総領事でした。
木村総領事は南米での領事、総領事歴が17年だそうで、政治的、経済的な外交の専門家で見識が高い人で、参加された皆さんと4時間余り楽しく過ごさせて頂きました。

木村総領事からは、日本を離れ海外で暮らすようになって、日本文化継承の大切さを感じた。
日本の節句文化を継承する会に期待するし、応援しますとのお言葉を頂きました。



クリチバから飛行機で1時間、マリンガの日本庭園を訪問しました。2016年、リオ五輪の時に訪問して10m鯉のぼりを掲揚し、その記念に植樹をしたブラジルの国花イペーの木が元気に育ってました。

マリンガ日本庭園のマークは鯉のぼりです。日系の人たちが多く空港には鳥居が設置されています。





マリンガ日本人学校元校長先生宅を訪問させて頂きました。

現在は息子さんと一緒に牧場や、地平線まで続く畑で大豆やトウモロコシなど栽培する大規模農場主です。

大豆を絞って作る油用の大豆、豆腐用の大豆、同行して頂いた山下氏のアイデアで、最近、ブラジルでも人気がある、枝豆の栽培も盛んに行われてました。肉食系のブラジル人にも受け、スーパーマーケットでも販売してるそうです。

全て自分の農場で作った食物で、親子三代でのおもてなしでした。



サンパウロのジャパンハウスを参観しました。
総領事も言われてましたが、日本の古い物を現代的にアレンジした丹後の織物などのスカーフ。漆塗りの箸。淡路島の海苔は最近、韓国や中国品に価格的に押されてたが良質な本物として人気で売り切れ状態のようです。
入場者は日本人、日系人が多く贈答品として買ってる人が殆どでした。





帰国途中の乗り換え空港、フランクフルトでクリスマスマーケットを見てきました。フランクフルトがクリスマスマーケット発祥の地だそうです。クリスマス前の約一か月間、マーケットは朝から深夜まで開かれ、クリスマスのオーナメントや、菓子を買ったり、ホットな赤ワインを飲みながら散歩する人たちが賑わっています。並んでるオーナメントは、ほとんど中国からの輸入品です。この賑わいは、日本の節句文化には無い雰囲気、少し羨ましい気がします。文化の生い立ちが違うので同じようにはならないと思いました。







この旅を終え感じること。

ブラジルに居住される日本人、日系人の人々は遠く離れ季節は真逆ですが、それぞれの居住区に、鯉のぼりを立て日本人で有ること、日系人で有ることに誇りを持ち、日本人らしく生活しています。

今、日本に生きる者として、日本の文化を守り未来に残す責任を感じました。

これからも、日本の節句文化を継承する会の活動を続け文化の継承により務めたいと思う旅となりました。

一般社団法人
日本の節句文化を継承する会
会長 徳永深二